

## 新エネ車向け用途開拓

## 粉末冶金業界、需要創出へ

日本粉末冶金工業会などは今年から、粉末冶金の電給構造の変化に対応して需要創出を促すプロジェクトを始動させた。向け先の6〜7割を占める自動車分野で電動化が進む中、粉末冶金がコストや性能面で優位な用途を見いだす。まずは主用途である高強度部材と摺動部材のワーキンググループ(WG)を設け、来年度中に具体的な目標および技術開発テーマを設定する。期間は5年間だが、長期スパンでも業界の目指す形を検証する。

## 新プロジェクト始動

焼結機械部品や焼結含油軸受けなどの粉末冶金製品は、自動車の内燃機関に多く使用される。今後、電動化に

伴う部品点数の減少で需要が半減すると見込まれ、業界全体で危機感が強まっている。

ボーン・ニュートラルの進展に対応するため、同工業会と学術団体の粉末冶金協会が連携し、本年度から「粉末

冶金技術イノベーションプロジェクト」がスタートした。事務局は金属系材料研究開発センターが担う。需要創出に産官学で取り組む。当初は最大用途であ

る自動車分野に軸足を置く。高強度や複雑形状といった粉末冶金の特長を、電気自動車など新エネルギー車で見いだしたい考え。WGごとに目標や進め方を議論している。

研究開発の方向性も今後すり合わせる。尾崎公洋プロジェクトリーダー(産業技術総合研究所招聘研究員・粉末粉末冶金協会理事)は「プロジェクト

で業界が進むべき『幹』を作る。その上で個社が開発や拡販も行い、新規用途を進化させていきたい」と説明する。

分野での採用の可能性も探る。経産省の2025年度版素材産業レジョンとも方向性は一致する。産学連携により専攻を問わず関心のある人材を確保・育成すること、業界の継続的な発展につなげる。また粉末冶金は欧米やアジア各国にも有力

企業があり、競争激化が見込まれる。新規需要創出で競争力を確保し、外需を取り込む。経済安全保障上のチョークポイントの補完にもつながる。

尾崎プロジェクトリーダーは「ここで抜け出すか明確にしている」と、テーマアップの重要性を強調する。